

室神山

学校便り
平成30年1月16日号
江津市立江津東小学校長 安食 徹

平成29年が明け、3学期が始まりました。皆様にとりまして、今年一年が実り多き年になりますよう、お祈り申し上げます。今年も本校の教育活動に対しまして、引き続きご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

始業式で話したこと

おはようございます。本当なら、新年の挨拶から始めるところですが、その前に一つお知らせしたいことがあります。6日(金)に江東中学校の段千賀子先生が亡くなられました。突然のことで本当に驚いています。私は去年まで3年間江津市の音楽部長をしており、大変お世話になりました。段先生は、温かい人柄と高い指導力をもっておられた大変優秀な先生で、江東中学校の吹奏楽部を指導され、今年は県大会で金賞という立派な成績をあげられました。まだ江東中に来られて2年ほどでしたので、江津東小の子どもたちは中学校に進学すると段先生と出会えるなあと、私は喜んでいました。しかし、それがかなわなくなりました。非常に残念です。今から、段先生の冥福を祈りたいと思います。(黙祷) 皆さん、人はいつか死ぬのです。これからの与えられた日々、人との出会いを大切にし、精一杯に生きていきましょう。時間を無駄遣いするのはもったいない。3学期は短い学期です。今日を入れても53日。6年生には50日しかありません。それを心に刻んで、一日一日を大切に生きていきましょう。

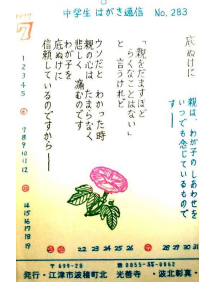
改めまして、皆さん、明けましておめでとうございます。今日から3学期が始まります。2017年という新しい年も始まっています。今年は「とり年」です。鳥のように高く羽ばたける成長の年になるといいですね。

「一年の計は元旦にあり」皆さん、一年の計画を立てましたか。いい計画を立てて、素敵な一年にしてください。さて皆さんは正しいという字を知っていますね。「一に止まる」と書きます。一に止まること、何か一つを決めて、それに止まり続ける。それをやり続けるのが正しいということなのかもしれません。

私は波積の文化祭に行ったとき、たくさんの古い葉書が展示してあったので見てみました。それは光善寺住職だった波北彰真さんが月に1回、中学生に向けて送り続けられた葉書でした。江東中学校の中学生を中心にたくさんの中学生に向かって送り続けられたということです。29年4ヶ月に亘って、平成15年の4月、亡くなる前の月まで送り続けられたそうです。相手が有り難がるかどうかはわからない、説教臭いと嫌がる人もいるかもしれない、そんな心配もあつただろうと想像します。でも波北さんは中学生が健やかに育つことを願いながら、純粋な気持ちで自ら決めた一つのことを、信念を持ってやり続けられたのだと思います。とても尊いことだと思います。その中で特に心に残ったメッセージがあつたので紹介します。(詩の紹介) 信じようとして

いる人を騙すほど、悲しいことはないと思います。家族は、特に親は、子どもを

底ぬけに
「親をだますほど らくなことはない」
と 言うけれど
ウソだと わかった時
親の心は たまらなく
悲しく 痛むのです
わが子を
底ぬけに
信頼しているのですから



※玄關に拡大したはがきを掲示しています。

じたいのです。都合が悪いとき、簡単にごまかしたり、ウソを言ったりしていませんか。家族の人への態度について、一度じっくり考えて、家族にとってもいい一年にしてください。

また、「一」といってもいろいろなレベルがあると思います。「早起きする」などの生活上のこと、「漢字練習をがんばる」などの学習のこと、様々なレベルで、それぞれで大切にすべき「一」があると思います。私が校長として特に大事にしてほしい「一」を言います。これはしっかり守ってください。そこに止まってください。それは「人を大切にする」と言うことです。「人」には自分も他人も入っています。ここに止まり続けることは人間として正しいと思います。自分も人も大切にしてい一年にしてください。

また今、こうしてみんな当たり前のように集まっていますが、6年生と一緒にいるのも3月までです。3学期は、6年生にとっては最後の小学校生活、5年生以下の人にとっては、6年生といわれる最後の学期になります。また担任の先生とも一緒に過ごす最後の学期になります。一日一日が大切な日です。そういう思いで過ごしてほしいと思います。そして、6年生を中心に、みんなで協力し合いながら、しっかり成長してください。それでは、すばらしい一年間になるよう頑張ってください。

書き初め練習会

12月14日(水)15日(木)に、3年生以上が書き初め練習会を行いました。講師の方に来て頂き、丁寧に指導して頂きました。子どもたちは集中し、一生懸命に作品を仕上げていました。本当にありがとうございました。



また、ご指導をもとに、新年に書き初めに取り組んだ児童の力作が授業公開日まで学年の所定の場所に展示してあります。どうぞご鑑賞ください。



うそつくな・親切に…幼少期にしつけ、年収高め

かなり前の記事ですが、興味深い記事ですので紹介します。

「うそをつかない」「他人に親切にする」「ルールを守る」「勉強をする」という4種類のしつけを子どもの頃に受けた人は、どれも受けていない人より、平均年収が約86万円も高い。こんな調査結果を神戸大経済経営研究所の西村和雄特命教授らの研究グループが発表した。グループはインターネット調査会社に登録した人から無作為に選んだ9万人に調査票を送り、仕事を持つ1万3164人から回答を得た。幼少期に周りの大人からよく言われたことを8つの選択肢から選んでもらい、年収を比較した。その結果、「うそをついてはいけない」としつけられた人の年収は、平均約448万円で最も高く、しつけられた覚えがない人(同約398万円)を50万円上回った。「他人に親切にする」「ルールを守る」「勉強をする」も、しつけを受けた場合の方が、年収が約29万~15万円高かった。さらに、これら4つのしつけを全て受けた人の平均年収は約479万円で、ひとつも受けていない人(約393万円)と比べ、約86万円高かった。一方、「あいさつをする」や、「ありがとうと言う」といったしつけは、年収の高さとはほとんど関係なかった。

【平成25年9月20日(金)14時33分配信 読売新聞】

最近、取り沙汰されることの多い学力も「勉強をする」というしつけと関係があると思います。社会で自立して生きていける確かな学力を子どもたちの身につけさせていくことは、学校の使命でもあります。しかし、「うそをつかない」ということの方が年収との相関関係が高いということが意外でもあり、うれしくもあります。4つのしつけを全て受けた人が収入が最も高くなるということは、身につけた学力を社会に出てから、上手に発揮していく上で、「うそをつかない」「他人に親切にする」「ルールを守る」という生き方が必要なことを示しているのかもしれませんが。昨今、重要視されてきているキャリア教育に対しても、貴重な示唆を含んでいる記事のように思います。

学力は確かに大事です。しかし、学力偏重の教育になってしまっただけでは、決して良い結果を生まないと私は思います。『神（愛）なき教育は、知恵ある悪魔を作る』というような言葉を聞いたことがあります。正直さ、誠実さ、親切心、思いやり、公德心などを育てていく心の教育を大切にすると全人的な教育の中で、学力をしっかりとつけていくことこそが大切であり、そうしていけるよう職員一同、力を合わせて頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。また、「あいさつをする」や「ありがとうと言う」といったしつけは、年収の高さとはほとんど関係なかったとありますが、幸福度や人間関係の充実度を問うような質問にした場合、きっと相関関係が高いはずだと想像します。どれも大切なしつけであることは間違いなくと思います。

PTA図書紹介

各学級に、今話題になっている本『いまの科学で「絶対にいい!」と断言できる最高の子育てベスト55』(トレーシー・カチロー著、鹿田昌美訳、ダイヤモンド社刊)を購入しました。是非借りてお読み頂きたいと思っております。

「子どものIQはどうすれば伸びる?」「なぜ、ごっこ遊びがそんなに大事?」「外国語や科学、数学への興味を育てるには?」…脳科学から心理学、教育学まで最新リサーチを網羅し、いまの科学の常識で「これは絶対にいい!」と断言できる子育て法を厳選、網羅した本です。「最もクールで、最もわかりやすい」「これからの子育ての新基準」と絶賛された話題のベストセラーです。私も読んでみて、納得するとともに「自分が子育てをしているときに読んでいけば…」と後悔することが多々ありました。試してみるのには、五歳児ぐらいまでがベストだそうですが、人生に遅すぎるということはありません。私もすでに成人した我が子に対して、心がけていきたいことをたくさん学べました。若いお父さん、お母さん方には是非お勧めしたい一冊です。

内容紹介

- 子どもにとって一生の「得」になる8つのこととは?
- 私自身の育児体験も盛り込みました。「子育ては、大変だけれど楽しくて笑いがいっぱい」というイメージをお伝えできればと願います。
- ここに書かれたテーマー愛情、語りかけ、生活習慣、遊び、つながり、しつけ、動く、スロウダウンーは、生後2ヵ月でも、2歳でも、5歳でも、15歳でも、そして50歳でも、私たちが人間である限り、大切なことです。
- 子どもに個性があるように、親も一人ひとりが違います。アドバイスに従った

のに望まない結果が出ることもあれば、アドバイスに従わなくても望み通りの結果になることもあります。自分の子どもに効果的かどうかを知るには、実際に試してみるしかないのです。その意味では、この本は、いわば「道案内」のようなものです。よさそうだと思う道を選んだり、いまの道のままでいいのかを確認したりするのに使ってください。すべてのアドバイスに従う必要はありません。赤ちゃんが生まれたら、できるだけ肩の力を抜きましょう。子育てにおいて本当に大切なことは、シンプルです。

- 一緒にいるときにたっぷりかまってあげる。たくさん話しかける。きっぱり、かつ温かくしつける。たくさん抱きしめる。そして、たくさん睡眠を取らせてあげる。そのためのコツが、ここに書かれています。お子さんを「素晴らしい子ども」——頭がよくて、幸せで、社会性があり、情緒が安定していて、道徳的で、好奇心に満ちた、愛される子ども——に育てる基礎づくりに役立てていただければ幸いです。幸運をお祈りします(お互いに!)。 【まえがきより】

この他に「勇気づけの子育て入門」「親業に学ぶ子どもとの接し方」「素敵なお母さんになるシンプルな3つの方法」「ほめるより子どもが伸びる勇気づけの子育て」の4冊も購入しております。各学年に1冊ずつ(計5冊)ありますので、是非借りてお読みください。貸し出し希望の方は、担任まで連絡してください。

近藤先生の講演会のお知らせ

1月22日(日)の人権・同和教育の公開授業の後、午後1時40分より、3時10分までの間、山陽学園大学総合人間学部長(兼)生活心理学科教授の近藤卓先生をお招きし、『自分を大切にしよう!~自尊感情の重要性~』の演題で、講演を行っていただきます。ユーモアたっぷりの近藤先生のお話は、わかりやすく、アツと言う間に時間が過ぎることと思います。ここ2年で江津市には何度もおいで頂いております。23日(月)には江東中学校の生徒に向けての講演も予定されています。前半45分は全児童も参加します。生きるために必要な自尊感情は人権・同和教育においても、非常に重視されています。中でも基本的自尊感情については、望ましい人間性育成のための基盤となります。この研究における第一人者の近藤卓先生の講演です。是非、ご参加頂きますようよろしくお願いいたします。また、地域の方で興味・関心のある方も是非ご参加ください。その際はご面倒ですが、江津東小学校 松尾教頭(55-0003)までご連絡をくださいますようお願いいたします。

お知らせ

ドクター・リセラ株式会社と山陰合同銀行よりテントを寄贈して頂きました。今後子どもたちの教育活動を一層充実させていくために有効に活用していきたいと思っております。ありがとうございました。

